

教えて！  
私たちに  
できること

## ママを亡くした知り合いの子どもと、 どのように接したら良いのでしょうか？

ママやパパなど大切な人を亡くした子どもに声をかけたくても、「どんな言葉をかけると良いの？」「どう接して良いのかわからない」と悩む方は少なくありません。そのようなときはどうしたらよいのでしょうか？ポイントを教えてもらいました。



### 大人が勝手に判断したり、 決めつけたりしない

例えば子どもがいつも笑顔だから、「ママやパパを亡くした悲しみを乗り越えた」「もうこの子は大丈夫！」と、大人が勝手に判断するのはタブーです。また「亡くなった親の話はしないほうが良いのでは!？」と考える方もいますが、思い出話をすることが心の癒しになり、その人をいつまでも忘れないことに繋がるというケースもあります。

### 子どもの言葉や表現方法を 受け止めましょう

子どもの言葉に耳を貸して、よく話を聞いてあげてください。大切なのは、子どもの心に寄り添うように話を聞くことです。また子どもにとって遊びは、ひとつの自己表現です。安全な場所と一緒に遊ぶことを通じて、子どもと心を通わせることができます。

AIMS★NEWS

## 「AIMSファシリテーター養成講座」が 開かれました

2012年6月23日(土)、24日(日)の2日間、紀尾井町ビル会議室(東京都千代田区)で、「AIMSファシリテーター養成講座」が開かれました。

講師は、死別・喪失体験やトラウマ体験をした子どもたちの心のケアの専門家で、「Kids Hurt Too Hawaii」\*の創設者兼エグゼクティブディレクターを務めるシンシア・ホワイトさん。「Kids Hurt Too Hawaii」\*の共同創始者で、プログラムディレクターの伊藤ヒロさん。

当日は、子どものグリーフやトラウマに関する説明を通し、実践的な対処法をレクチャー。参加者からは「子どもに安心感を与えることの重要性を再確認しました」「実践の時間が十分あり、わかりやすかったです」などの声がありました。



レクチャーする、  
講師のシンシア・  
ホワイトさんと  
伊藤ヒロさん。

## AIMS誕生のきっかけは、 故・小林真理子さんの わが子への想いから



AIMSは、現代表・高井伸太郎さんのお姉さまである故・小林真理子さん(元NHKアナウンサー)の強い想いからスタートしました。

2011年、43歳という若さで小林さんは逝去されました。「風邪もひかない元気な体質」とご本人も思っていたが、体調の異変に気付いたときには胃癌のステージIV。「卵巣にも腹膜にも転移している」と主治医から余命を告げられました。「自分のことはすぐに受け止められたけれど、何より心配だったのが幼い娘のこと、その心でした」と生前の小林さんは記しています。

幼くまだ十分に自分の思いを周囲に伝えられない娘の心のケアはどうしたらいいのか—調べていくと日本にはそのようなケアやサポートを中心に行っている組織がなかったのです。「ならば、私が創ろう」母としての大きな想いが、AIMS設立の第一歩なのです。



娘さんを抱っこする、  
元気だった頃の小林真理子さん。



AIMS エイムス

〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1-9-6 浜田ビル4F  
特定非営利活動法人AIMS 2011年8月設立 2012年4月特定非営利活動法人として登記

創立者：小林 真理子 - 故人 -  
顧問：浅利 慶太 (劇団四季代表)  
井上 孝代 (明治学院大学心理学部長 臨床心理士)  
上田 紀行 (東京工業大学准教授 文化人類学者)  
漆 紫穂子 (品川女子学院校長)  
鎌田 實 (諏訪中央病院名誉院長)  
川井 郁子 (ヴァイオリニスト)  
川越 厚 (医療法人社団バリアン理事長)  
野島 直樹 (NHK交響楽団前理事長)  
(敬称略・五十音順)

代表：高井 伸太郎  
事務局長：小林 孝雄  
理事：明石 由紀子  
池上 三六  
上野 雄介  
Aki Shelton  
三浦 建太郎  
監事：唐津 真美 (骨董通り法律事務所 弁護士)

ミキハウスはAIMSの活動に賛同しています。

### ■AIMSメールマガジン(無料)のご案内 <http://www.aims-japan.org/>

AIMSでは、メールアドレスをご登録いただいた皆さんに、活動の報告をはじめ、講演会・セミナー・勉強会等のイベントのご案内、プロジェクトに応じて、お手伝いいただけるスタッフやボランティアの募集情報などを、メールマガジンの形でお届けいたします。(発行不定期)AIMSの活動にご興味のある皆様は、是非ご登録ください。(ホームページからアドレスを送信、無料です)

### ■AIMSに関するお問い合わせ

お問い合わせはメールにてお願いいたします。随時返信させていただきます。  
info@aims-japan.org

お話をうかがったのは…



AIMS代表 高井伸太郎さん

創立者・前代表 小林真理子さんの実弟。小林さんの逝去に伴い、新代表になる。弁護士。

# 子どもたちに 笑顔が弾ける瞬間を — 私たちができること

ママやパパを癌や病気で亡くした、幼い子どもたち。  
その子どもたちの心のケアと健やかな成長を見守りながら、  
再び笑顔が取り戻せるように活動している「AIMS」をご存知ですか？  
AIMS発足のいきさつや活動について、  
代表・高井伸太郎さんにお話をうかがいました。

[取材・文●麻生珠恵 撮影●宮川久(P46) イラスト●いしいゆき]

## AIMSの誕生は、 癌で余命を宣告された ひとりの母親の想いから

ママやパパを癌や病気で亡くした、幼い子どもたちに再び笑顔が戻るように、心のケアと健やかな成長を長期的にサポートする「AIMS」が設立されたのは約1年前のこと。

代表を務める高井伸太郎さんの実姉・小林真理子さんが、幼いわが子を抱えながらも43歳という若さで、癌で余命を告げられたのが設立のきっかけでした。

もしママやパパが大きな病気になり、医師から余命を告げられたとしたら、最も気になるのは子どものことではないでしょうか。「私が亡くなったなら、家族にこの子のことはお願いしよう……」と思うものの、「子どもの心にポツカリ空いてしまった穴は埋められるの？」「みんなの前では、頑張



って笑顔を見せることができたとしても、本当はいつも心の中で泣いているのではないかしら？」と、ママやパパは心を痛めることでしょう。しかし日本では、そうした子どもたちの心のケアの対処について、適切な方法が明らかにされておらず、残された家族が手探りで担っていることが多いのが現状です。

## 今秋から活動が本格化！ 子どもたちと交流し 長期的なサポートを

「AIMS」は「グリーフケア」という観点で、残された子どもたちの健やかな心と体の成長を長期的にサポート。

ちなみにグリーフとは、大切な人との死別、離別に伴って経験される、悲しみ、怒り……などの感情のこと。

今秋からは都内で月1回、本格的に活動を開始します。内容は、

「Kids Hurt Too Hawaii」\*でも取り入れているプログラムで、リラックスした雰囲気の中で子どもたちが集まり、自己紹介をしたあと、自由に遊び、最後にみんなで集まって話をするというもの。約2時間のプログラムです。

「将来的には東京だけでなく、大阪などにも活動拠点を広げ、月1回のプログラム以外にも、ミニコンサートやキャンプなどの課外活動を通し、子どもたちとコミュニケーションを深めていきたいですね」と語る代表・高井伸太郎さん。

また6月に行った「AIMSフアシリテーター養成講座」(詳細は、左ページ参照)も引き続き開催。これは一般の方も参加できる講座で、子どもたちのグリーフケアに携わるための専門的な知識やノウハウが学べます。

AIMSの活動は、ホームページやメルマガでご案内しています(詳細は左ページ参照)。

\*「Kids Hurt Too Hawaii」とは？  
2001年に設立されたハワイ・ホノルルにあるNPO団体。親や身近な人との死別体験をしたり、離婚などで両親と離れて暮らす子どもたちのためのグリーフケアやトラウマケアなどを行い、子どもたちにとって安心・安全な場を提供。ファミリーテーターの養成にも尽力しています。  
<http://www.grievingyouth.org/wordpress/>